

CAVOK 2014年航海日誌 NO5

(8月30日(土) Marmaris ~ 9月18日(木) Amorgos)

松崎義邦氏メール(9月21日)

皆様に

トルコでの昨年から1年以上に亘る滞在も終わり9月上旬よりギリシャに入りました。風の穏やかな地中海側トルコから北の強風が強いメルテメが吹くエーゲ海に入ってから、風と睨めっこで航海の日程に工夫が必要になりました。

幸いにメルテメの一番強い時期は7,8月で9月になると徐々に弱くなってきます。一般にエーゲ海と云うと穏やかな海を思い浮かべますが夏はほぼ北からの強風の世界です。

9月3日には正田さんと酒井さんがマリマリスで下船して、新たに友人の辻夫妻が乗船しました。トルコでの最終地点トルグトレイス迄風にも恵まれ快適な航海が出来ました。

トルグトレイスでは、稲次御夫妻に誘って頂き、1985年のイラン・イラク戦争の時イランに取り残された日本人を救出するために飛び立ってくれたトルコ航空の元チーフパサーをしていたマリノア夫人が経営しているレストランに案内して頂きました。とっても素敵なマダムであらためて感謝の意をお伝えさせて頂きました。

9月11日にはギリシャのレロス島に渡りました。そしてほぼ無人島に近い島の入り江に錨泊して満天の星空を楽しんだりしなりの航海をして現在アモルゴス島に係留しています。

アモルゴス島は映画グランブルーのロケ地として知られています。海の色は何とも言えない美しいブルーです。米国からの友人がここで乗船するので暫く滞在して美しい海で泳いだり、観光したりしてのんびり過ごして友人の到着を待っています。

9月も下旬になると朝晩涼しくなり日が暮れてから長袖が必要になってきました。こちらでも夏の終わりを感じてきました。

今日で4日吹き続けたメルテメも明日は治まりそうです。今年のCAVOK5の越冬予定地クレタ島までは約100NMの近い距離になりました。残りの航海をメルテメの強風に注意しながら途中の島々を寄りながら楽しい安全航海を続けたい思っております。

Amorgos にて

松崎義邦

航海日誌

8月30日(土)Marmaris 快晴

今日は観光船でダルヤンツアーに行く。8時にタクシーで係りの人と待合せのMarmaris 港の前にあるツアーオフィスに行くが、約束の時間になっても係りの人が来ず結局自分たちで今日予約してあった ORCA 号に出港時間に間に合うよう行く。

9:30 発で帰着が 19:30 の約 10 時間のデイクルーズで、途中岩場で海水浴をしたり、亀の産卵で有名な長い砂浜のあるタートルビーチで泳いだり、亀の餌づけ、Dalyan には小舟に乗って途中カウノスの紀元前にリキヤ人が作った岩窟墓の見学、そして Dalyan では泥温泉に浸かり、小舟の上では当地名物ブルークラブを食べて、夕方夕陽を見ながらのんびりした一日を過ごす。



艇に戻ったのが 20 時過ぎになったのでマリーナのレストランで軽く夕食を済ます。

8月31日(日)Marmaris 快晴

26 日から乗艇していた奥村純代さんが今晚イスタンブールに帰る。そして正田さんのホッケー部の後輩の酒井充穂子(平成 23 年卒)が 3 日まで乗艇する。彼女は三菱商事に入社後 1 年間研修でトルコへ語学研修で派遣された経験を持つ。

午前中はそれぞれ過ごして、お昼に奥村さんが持ってきてくれたイカスミパスタを頂く。

パスタ自体が真っ黒で味もコクがあり美味しかった。

ここはアンカーを打って係留しているが隣の艇とアンカーが交差しているようなので潜ってみると案の定交差していた。隣はイタリア人の艇で昨日サルデーニャ島に関する情報を教えてもらった。彼らが出港するとき彼らのチェーンの上に打った我々がアンカーを揚げて暫く彼らが出港するのを待って彼らが出た後再度アンカーを打って係留する。

このようなケースは時々あり、注意して打つが難しい事がある。

15 時過ぎに酒井さんが到着する。彼女は休暇でトルコに来て最初我々のクルージングに参加してその後イスタンブールで過ごすそうだ。

夕食はチキンスープカレーを頂く。食後奥村さんをタクシー乗り場まで行って送る。彼女はトルコ語が巧みなので大変助かった。

夜は酒井さんが持ってきてくれたオールドパー・クラシック 18 年をロックで飲みながら話が弾んだ。日中の暑さと違い夜は急に秋らしく涼しくなり快適な睡眠がとれる。

9月1日(月) Marmaris ~ Ciftlik (12NM) 快晴 南西 5 ~ 10

新しく酒井さんが加わり Ciftlik に一泊ピクニック航海に行く。

10:10 にバウのアンカーを揚げて静かな湾を機走する。湾が開けたところから南西の 7, 8 ノットの良い風が吹き出しクローズホールドの帆走を楽しむ。周りには多くのヨットが今までになく出ている。

12:50 に Ciftlik 湾の中にある Rafet Baba のレストラン桟橋に横着けする。ここも馴染みの場所で皆さん覚えていてくれた。

桟橋には電気、水、レイドライン(アンカーの代わりに常設してある舳いライン)が備わっていて便利だ。透明度の良い海で早速皆さん泳ぐ。

岩場の山に登り上から湾の写真を撮って戻るときに足首を蜂に刺される。ミツバチと違う種類の蜂で足が少し腫れ痛みも出てきた。結局この痛みは朝方迄続いた。

夕方には 10 艇以上のヨットが桟橋に係留した。

19:30 からレストランで、サラダ、キョフテ、オラーダのグリル、カラマリフライをチャンカヤの白ワインで食べる。食後にはフルーツがついてきた。

食事代は係留料含めて 4 人で 183 トルコリラ、日本円で約 9000 円だ。素晴らしいヨットライフが出来る環境だと思う。

夜は涼しくなり長袖が必要なくらいになる。

9月2日(火) 快晴 Ciftlik Marmaris(12NM) 快晴 微風

昨日刺された蜂の痕が腫れて一晩中痛みがあった。朝方少し熱っぽかったので体温を測ると 36.9 度あった。朝食の後 10:00 に桟橋の舳いを解く。

風は弱かったが風向が良かったのでセールを揚げてセーリングをする。波が無いせいか微風にもかかわらず心地よい。

私は熱っぽいので正田さんにウオッチを続けてもらい艇内で休む。

13:00 に Albatours のマリーナに今度は外桟橋に横付けをする。

着いてからも暫く休んでいたら熱も下がってきた。

夕方タクシーで町に出て明日イスタンブールに行く正田さんと酒井さんの見送りと入れ替わりに来る辻夫妻を迎えに Dalaman 空港に行くため、レンタカーを借りる。

夕食はキュウリの浅漬け、ポテトのガーリックグリル、ラタトゥユ、ラムチョップを赤ワインで頂く。今日の晩餐会は 3 週間一緒にセーリングした正田さんと 31 日に来た酒井さんのサヨナラパーティーであった。

Marmaris の長く伸びる海岸線の明かりを見ながら夜長を過ごす。丁度正田さんの居た期間は天気と風に恵まれ楽しい航海が出来た。

9月3日(水)Marmaris 晴れ

朝 6:40 に 95KM 先の Dalaman 空港に今日帰国の途につく正田さん、イスタンブールに行く酒井さんをのせてレンタカーで出発する。整備された一本道が空港迄続いていた。

そして正田さん、酒井さんと出発ロビーでお別れをした後、国際線の到着ゲートに辻夫妻をお迎えに行く。既に到着していて携帯で連絡を取り合い久しぶりの再会をする。

帰りは折角なので Marmaris の賑やかな町を抜けて Albatros マリーナに到着する。長旅にも拘わらずお二人ともお元気で、ビールで歓迎をする。

昨日頼んでおいたバウスラスターのバッテリートラブルの修理をメカニックに頼んでいたがお昼前に来てくれ、直してくれた。充電出来なかった原因はターミナルの劣化だった。

一休みした後、Marmaris の町に出てウオーターフロントを散歩する。前回行ったことのないオスマントルコ時代のお城に登る。海岸線が一望に見える。又ここにはこれから行く Knidos の遺跡が展示してあり参考になった。

ミグロスの大きなスーパーでこれからの航海の買い物をしてからレンタカーを返しに行き、そのままマリーナ迄送ってもらう。

夕食は野菜サラダ、ゴマダレイチジク、チキンカツレツを白ワインで頂くがチキンカツレツのソースがオレンジ味で美味しかった。

9月4日(木)Marmaris Bozukale(30NM)晴れ 微風西南西 15~20 ノット

朝マリーナ内のランドリーに洗濯ものを取りに行き、マリーナの支払いを済ませ 09:50 に出港するがサングラスをオフィスの忘れのたに気が付き戻る。再度 10:10 に出港する。

狭くなっている湾の出入り口を沢山のヨット、ガレット船と一緒に通過する。

お昼にチャーハンを頂いた後、良い風が吹き出しセールを揚げる。向かい風だが波のない海面を 10~15 ノット位の風を受けクローズホールドで快調に帆走する。風が段々強くなり白波も多くなりメインだけリーフするが 7 ノット近いスピードを確保する。3 度ほどタッキングをして Bozukale の入り江の手前 3NM で機走に変える。

辻夫妻は初めてのヨットなので船酔いを心配したが全く船酔いすることは無く安心してセーリングが出来た。

Bozukale では今回 4 度目になるお馴染みの Alibaba のレストラン棧橋に檣着けする。

早速全員海に飛び込む。

夕方カクテルのブルと辻さんが作ってくれたバーボンベースのカクテルをチーズ、エビのタパスで楽しむ。

夕方には桟橋はヨットで一杯になる。

桟橋にレストランの従業員が大きなイナダに似た採りたての魚を一匹抱えてきて注文を取りに来たので切り身 2 人分を注文する。

夕食は掘立小屋に近い建物のレストランでメゼ、注文した魚のグリル、カラマリフライを白ワインで食べる。

魚は白身で美味しかった。

艇に戻りトルココーヒー、ウイスキーのオンザロックで夜空を眺めながら楽しむ。

9月5日(金) Bozukale 快晴

今日は風が若干強くなるのでここでもう一泊することにした。久しぶりに私は朝寝坊をして 8:30 に起きたら皆さん居ない。

辻夫妻は既に丘の上にある城塞に散策に行っていた。

泳いだりしてゆっくりした午前中を過ごしお昼に冷やし中華を頂く。

午後は一休みの後ラバーボートを降ろして入り江を一周する。Lorymaと言われたこの地域は紀元前 1000 年からの歴史ある場所だ。残念ながら当時の遺跡を見る事が出来なかった。

9月過ぎてから雲が山沿いに出る様になった。夕方になり鱗雲が広がってきた。気温も下がり大変過ごしやすくなってきた。

レストランから出前で、カラマリフライ、フライドポテト、サラダを頼んでブルで一杯やった後、夕食にラムチョップを頂く。

今日もコクピットで寝てしまう。夜更けに寒さで起きて艇内に入った。

9月6日(土) Bozukale Sim Datca(24NM) 快晴 西北西 15~20 ノット

昨日から朝方にかけて風の強い予報が出ていた。そして今日も午後から強い風の予報が出ているのでお昼に Datca に着くように 0800 に舳いを解く。

Bozukale の半島を越えるまでは横風を受けてメインセールをリーフして機帆走するが、半島を越えてからコースが風向と正対する。20 ノット近い風の中機走で途中予定していた寄港地 Sim を目指す。Sim 島はギリシャなので、上陸せず Sim 港の中をぐるりと回り景色を眺めるだけにした。

その後 Datca を目指すが白波の起つ海面を機走する。

Datca に近づき 2NM をきったところから陸のブランケット影響で風が治まる。Datca は小さな風光明媚な漁港だ。アンカーをバウから打ちスターンを岸壁に舳う。岸壁が円

の形で中心が海側なので中心に向けてアンカーを打つ感じなので、どうしてもアンカーチェーンが他艇のチェーンと絡みやすい場所だ。

案の定潜ってみると隣の艇と交差していた。隣の艇にその旨伝えて明日出るとき教えてくれと伝えたらノープロブレムと何の心配もしていない。Datca 港ではこの件は日常茶飯事な事の様だった。

土曜日があるということで行ってみるが、どこにでもあった衣料市であった。

町は田舎のバカンス村と云う感じで岸壁の周辺はブーゲンビリアで飾られたレストランが何軒もあり青空に美しく映えていた。

港の横の小さな海水浴場で泳いでから水浴びをするが、泳ぐと暑さが引いて気持ち良い。

夕方いつものようにエビのタパスとグリーンペッパーのタパスをジンベースのカクテルのブルで楽しむ。

夕食はナスの味噌汁、お握りをこちらで買った小魚の酢漬けと梅干しで頂く。暫くこちらの料理が続いたので日本からのお米のお握りが美味しかった。

9月7日(日)Datca ~ Knidos (20NM) 晴れ後一時にわか雨 西南西 7~13 ノット

8時過ぎに隣の艇が出るので、先に出てもらおう事にする。前日2回目に潜った時に我々のアンカーを他艇が絡まり揚げた形跡があり少し複雑にアンカーが絡まっていた。

先に出た隣の艇の人達が潜ったりして絡みを取り無事アンカーを揚げる。我々も直ぐアンカーを揚げてチェーンの絡まりを解いてくれた隣の艇にお礼にお箸を渡す。トラブルをトラブルでなく簡単に処理してくれフレンドリーだ。こちらではこのようなやり取りがあるので気持ちが良い。

08:40に出港して湾を出た後早速セールを揚げる。向かい風だが7~12ノット位の良い風が吹き、静かな海面を帆走する。辻さんは、初めてヨットを操縦する。

タックを何回か繰り返してからお昼にソーメンを頂く。青空と美しい色の海の中、そよ風を浴びながらのヨットの上での食事は極上だ。

食後風が落ちてきたので機走で最後の1時間弱を走る。

Knidosの入り江の棧橋にいつもと同じように横着けしようとするすると棧橋の先端にアンカーを打って槍着けする様指示される。チャーターヨットの集団が棧橋を予約で占領していた。

早速潜ってアンカーの効きと横の艇のチェーンと交差していないか調べたが問題なしだった。

辻夫妻はKnidosのギリシャ時代からの遺跡の見学に行く。

午後遅くなるにつれてどんどんヨットが入ってきて棧橋に23艇が係留、係留場所が無く横抱きにしていた。そして錨泊している艇も23艇あった。狭い入り江にすし詰め状

態になっていた。二つのチャーター会社がフロティラ(船団 Flotilla)で大挙押し寄せてきたので一杯になった。フロティラは初めての海域を、艇をチャーターしてクルージングするには良いシステムで1艇にプロが乗って何艇かの船団を誘導しながらクルージングを楽しむシステムになっている。

夕食はトマトサラダ、賀茂ナスの田楽、鶏の照り焼きを白ワインで頂く。
月が大分丸くなってきた。

9月8日(月)Knidos Turgutreis(24NM)快晴 西～西南西 7～15 ノット

トルコでの最終レグの日だ。08:40にアンカーを揚げる。静かな海面に向かい風だが良い風が吹き気持ち良いセーリングになる。日中の暑いときは向かい風の帆走の方が風を受けて心地良い。

ギリシャのコス島との間の海峡を、タックを何回かして Turgutreis のマリーナの手前まで帆走する。

マリーナに VHF で入港の連絡をするとラバーボートが来てくれ、ハイドロレンジャー号の脇に誘導してくれた。

今回で3回目の入港になるがハイドロレンジャー号の稲次ご夫妻が今回も迎えてくれた。

13:30に舳取りを取る。

早速お昼にキジ丼をナスの味噌汁で頂く。

明日辻夫妻がイスタンブールに発つので今日中にボドルム(Bodrum)観光に行くが生憎と月曜日でボドルム城は休館だった。

ボドルムは大変賑わっている港町で港には何十隻のガレット船が連なっていた。

夕食は稲次夫妻のご案内で前回行ったことのあるトルコ料理のレストランに連れて行ってもらう。レストランの前の浜辺から見るエーゲ海の島々の中に沈む夕日が美しかった。

焼き野菜、シシケバブ、ラムチョップ、キョフテ、そして牛肉、フレンチフライ、チーズ、玉ねぎが入った肉鍋を食べる。種類は多いが少しずつみんな食べる。それぞれが美味しかった。

又稲次夫妻の14年に亘るヨーロッパでの航海のお話も大変楽しかった。

艇に戻り稲次さんのグランドバンクスの2階のデッキで中秋の名月を楽しんだ。

9月9日(火)Turgutreis 快晴

朝起きると既に辻夫妻はボドルムに昨日見る事が出来なかったボドルム城の観光に出かけていた。

我々は久しぶりにデッキの水洗いや艇内の片づけをしてシーツ等をランドリーに出す。

お昼前に辻夫妻が戻りお土産にチャンカヤの白ワインを買ってきてくれたので、お昼にラトゥーコとスパゲティペペロンチーノを早速その白ワインで頂く。

短い期間であったが天候にも恵まれ予定通りに航海出来、又辻夫妻も積極的にクルージングを楽しんで頂き楽しい航海だった。

14:15に頼んでおいたタクシーでボドルム空港に向かった。

見送った後暫くお昼寝をしてから、明日からの航海のための買い物に出かける。夕方マリーナの隣の海水浴場で日課の海水浴をする。

今日はスーパームーンだ。稲次さんから夕食を、満月を見ながらしましょうとお誘いを受けていたのでイワシの酢締とゴマダレイチジクを持参してお邪魔する。

巻き寿司、牛ヒレとハウレンソウの胡麻和えを用意してくれた。巻き寿司は卵焼き、山海漬け、うに、胡瓜、鮭を巻いて食べたが久しぶりの寿司飯、海苔で美味しかった。

陽が暮れるとともに東の空に満月が上ってきて美しい夜をハイドロレンジャー号の2階のデッキで楽しんだ。

9月10日(水)Turgutreis(快晴)

朝寝坊をして9時過ぎに起きる。昼食に稲次夫妻を招く。卵焼きと冷やし稲庭うどんをお汁とゴマダレで頂く。稲次さんはイワシの唐揚げ、イワシの酢締とスイカを差し入れしてくれた。食後のスイカも美味しかった。トルコのスイカは甘くて果汁が多く歯ごたえがあり美味しい。

お昼のビールが効いて食後コックピットで昼寝をした。その後プールで泳いで運動不足を解消する。

夕方6時からボドルムにある稲次さんご最良のレストランKomodorにドルムッシュ(ミニバス)に乗って行く。ここのオーナー夫人は1985年イラン・イラク戦争の時イラン在中の215人の日本人を救出するために救援機を派遣してくれたトルコ航空のチーフ客室乗務員の方だった。

この時の状況は48時間以内にイラク・サダムフセインがイラン上空を飛行する飛行機は総て攻撃すると突然通告した時だ。定期便は運航を取りやめ各国は臨時便を飛ばして自国民を優先してイラン国外に脱出させたが日本国からは救援機が派遣されず、窮地に追い込まれたときトルコ政府がトルコ航空機を派遣してくれた。この時トルコ人が未だ600人以上いる中、日本人を優先して乗せてくれ、トルコ人は陸路脱出した。脱出したトルコ人は誰も文句を言わなかったそうだ。これには背景として明治23年のエルトゥールル号の話があった。

元客室乗務員のオーナー夫人マノリアさんは上品な素敵な方でこちらからもあらためてお礼を言わせて頂いた。そしてご丁寧に我々の乗ったタクシーを見送ってくれた。

このレストラン Komodor は丘の上の住宅地の中にあり家族経営のレストランだ。お客様は一杯になり20位あるテーブルが満席になっていた。

メゼ特にタコのグリルは美味しかった。そしてメインのオコゼのアクアパッパ風の魚スープは絶品であった。今まで海外で食べたお魚料理で一番おいしく感じた。

心地よい風が吹くよしず張りのレストランで白ワインを飲みながら極上の時間を稲次夫妻と過ごした。

稲次夫妻にはマノリアさんのレストランをご案内して頂き大変感謝する。

9月11日(木)Turgutreis Leros(Xerokembos)(20NM) 快晴 北北西～西北西 10ノット
1年以上滞在したトルコとも別れギリシャに向かう。出国の書類の手続きをエージェントに頼んだら100€した。カスタムに行き出国の手続きについて確認したらエージェントに書類を作ってもらえと云う事なので仕方がない。

稲次ご夫妻に見送りをしてもらいマリーナに隣接しているカスタムの岸壁に艇を横着けてエージェントの人に手続きしてもらう。

10:25 に手続きが終わりギリシャに向け出港する。

20NM先のレロス島の東端にあるセロケムボス(Xerokembos)の入り江を目指す。向かい風だが10ノット前後の順風でタッキングをしながらセーリングを楽しむ。

入り江の中にはレストラン(タベルナ)が錨泊用のブイを設置しており、それに既に10艇位のヨットが舫っていた。我々はアンカーを打つつもりでいたがブイが空いていたのでそのブイに15:30に舫う。

我々はブイに舫うとき船首でブイを取って舫うのは、高い所から取るので結構大変なのでスターンからブイに近づき舫ってからロープを船首に持って行く方法を取っている。

舫った後、ラバーボートを降ろして上陸して村の様子を見に行く。浜辺は海水浴場で西側には小さな漁港がある。海水は透明度が高く綺麗だ。ブイの持ち主のタベルナに行き、ビールとイカフライを食べる。

泳ぐと海底まで透き通って見え気持ち良い。

日が暮れると半袖では寒い気温になってきた。

夕食は午後遅く食べたイカフライが効いてお腹が空いていなかったなので軽くスパゲティで済ます。

食後は二人コックピットで横になり過ごす。入り江の静かな夜だった。

この泊地は前に知り合ったフランス艇のJohnに教えてもらったところだ。

9月12日(金)Xerokembos(セロケンボス) 快晴

朝悦子の「大変」の声で目を覚ます。デッキに出てみるとブイに舫ってあった隣の艇が近づいていた。風が無くお互いの艇の船尾が接近していた。風があれば同じ方向

に艇が向くが無風状態だったのでこうなった。近づいただけでぶつかることもないのでそのままにした。

相手の方も心配ないということで朝の事件は終了した。後程彼が CAVOK5 にポートで来てニューカレドニアに行ったことは無いか聞いてきた。彼がニューカレドニアで私に似た日本人に会った事があり、もしかして同一人物かと思って尋ねに来たそうだ。ここには世界一周したり、大西洋を何回も横断したりと云うベテランセーラーが多くヨットマンの層の厚さを感じる。

午前中にラバーボートで上陸してタベルナでコーヒーを飲みながらインターネットでお天気を調べる。トルコからギリシャに変わったのでインターネットキーも交換しなければならない。

泳いだ後、お昼をタベルナで久しぶりのフェタチーズの乗ったギリシャサラダ、タコのグリル、イカフライをビールで食べる。漁港があるせいかイカ、タコはフレッシュで美味しい。

ここは静かで安全な泊地なのでもう一泊してからここから 5NM 先にある Leros Marina に入港してギリシャに入国することにする。本来は入国検査前に上陸してはいけないが免じてもらった。

夕食はあっさりとかも汁でお蕎麦を頂く。

陽が暮れるとセーターが必要な季節になった。又海水温度もトルコの地中海側では 28 度あったがここで図ると 24 度になっていた。

静かな泊地でゆっくりした夜を過ごす。

9 月 13 日(土) Xerokambos ~ Leros Marina(5NM) 快晴 北西 10 ノット

ここセロケンボスに未だ数日いてのんびりしたいところだが、ギリシャに入国していないのと風の都合もあり 5NM 先の Laki 湾にあるレロスマリーナに 8:30 ブイの舫いを解き向かう。09:50 にはマリーナのポンツーンに舫う。

レロスマリーナは一昨年 CAVOK5 を越冬させたところで 1 年半振りになる。懐かしい。

ここはギリシャへの Entry Port になっていないが、レロスマリーナに前もって問い合わせたところ入国できるとの事だったのでここでギリシャに入国することにしていた。

通常はカスタム用の棧橋に着けて入国検査を済ませてから上陸だが、ここでは後先逆で既にマリーナに入港してから町に手続きに行く。

先ず警察に行き入国検査を受けパスポートにスタンプをもらい、その後ポートオフィスに行きヨットの通行許可を得る。

町までは歩くとマリーナから 2、3km 位あるのでラバーボートで海上を直線距離で行く。

警察は隣町にありタクシーで行ったら、14時過ぎに来てくれと云うことで、出直して半日かかりになってしまった。

お昼に素麺を頂く。他にも携帯電話やインターネットの手続きをしたかったが土曜日で午後には店が閉り月曜日まで待たなければならなかった。



今日も良いお天気で北西の風が気持ち良く吹く。コックピットで遅い午後を讀書しながら贅沢な時間を味わう。

夕食はサラダ、チキンシチューとイワシの和え物をチャンカヤ白ワインで頂く。

日比谷坦子さんから頂いたキャンドルライトが毎夕食コックピットのテーブルを揺ら揺ら照らして良い雰囲気醸し出してくれる。

静かな艇で眠りにつく。

9月14日(日)Leros 快晴

日曜日なので用事のある店はお休みだ。ゆっくり過ごすことにする。

午前中に衣類の洗濯と艇内の敷物の洗いをする。

マリーナのスキッパーズ・バーでコーヒーを飲みながら調べものをする。

お昼にパスタオムレツとビシソワーズを頂く。

午後讀書をしているとオランダ人夫婦が訪ねてきた。こちらは気づかなかったがケメルで一緒した夫婦だった。ビールを飲みながら歓談をした。彼らはこのレロスに艇(Stern号)を置いて一旦帰国して来年又ここから地中海を西に進む予定だそうだ。オランダからドナウ川を経て黒海経由で来たそうだ。我々もやりたかったルートだったが我々のヨットでは無理があった。彼らの艇は巡航型モータークルーザーなので出来た。来年は同じイタリア方面に行くので何処かでの再会を約束する。

夕方風が治まったのでジブセールを開き、ジブセールの紫外線防止の一部が破れたので修理をする。

夕食はサラダ、ヒレスステーキ、ベーコンとズッキーニの炒め物、ご飯を赤ワインで頂く。

どこにも出かけない静かな一日だった。

9月15日(月)Leros Levitha(レビツァ)(20NM) 快晴 北北西8~15ノット

土、日曜日が終わり出港前に開店の9時に合わせて隣の町のAgiaにある通信会社WINDに電話とインターネットがギリシャで通信出来るようにしてもらえようタクシーで行く。

着いて店で聞くと今WINDの回線に不具合があり出来ないとの事、回復も何時になるか宛てにならないので戻る。帰りにレロス・マリーナのあるLakiの町でガスボンベを交換して戻る。

マリーナの船具屋に久しぶりに1年半振りに顔を出したら店のマダムが覚えていてくれた。

出港前に昨日訪れてくれたオランダ人の艇STERNにお別れの挨拶をしに行く。彼らも地中海を西に回るので再会を約す。

準備して出港しようとして居たらオランダ人夫妻が見送りに来てくれオランダの大きな国旗をプレゼントしてくれる。我々のオランダの国旗はもう5年も使っているの色あせていた。因みに船の旗は船尾にその船の登録している国の国旗、マストの右側に表敬旗として訪れている国の国旗、左側には乗組員の国の国旗を揚げることになっている。流石海洋王国だっただけに5年使っていたフラッグもほころぶこと無く現役活躍中だった。

11:00に舳いを解く。北北西の風が10ノット以上吹き直ぐ帆走に移るが、前日の風の影響か、波があり揺れがあった。片登りに近い風の中5~6ノットで帆走するが時折風が強くなり一時メインだけリーフしてヒールを抑えた。

15:20にレビツァ(Levitha)の入り江の奥まった場所にあるブイに舳う。

既に14個あるブイのうち11個は舳ってあった。舳うとき前方に舳っていた英国人男性が飛び込んできて我々の舳いをブイに通してくれた。お礼に日本からの扇子と巾着付き手鏡を届ける。

16時にはすべてのブイは一杯になり、小さなコンクリート棧橋にも1艇係留した。

入り江の周りには家一軒もない自然の中のこじんまりした入り江だ。奥まっているのでシェルターとしても安全な所だ。



島の中に1軒だけタベルナがあるので夕食はそこで食べることにする。自家発電の店で魚は釜戸で焼いている。我々はグreekサラダとカマスのグリルを食べるがカマスは新鮮で良い味であった。いつの間にかこのお店も係留艇の人達でテーブルが埋まった。

インターネットが出来ないので明日の天気を確認して艇に戻る。

明日から弱いメルテメになるそうなので明日は早朝に出港することにする。

この入り江の周りの丘は低いので遮るものが無く展望が開け、星空が良く見える。満天の星と南北に延びる天の川を見ながらグラスを傾け静かな入り江での夜を楽しんだ。

9月16日(火) Levithha Amorgos (Katapola 港) 35NM 快晴 北西 10~15 ノット

朝0700日出と同時に舳を解く。朝から北西の良い風で西南西に向けてクローズドホールドで帆走する。北西12ノットの風で6ノット以上の速度で快調だ。

Levithha 島をかわしてからコースが西寄りになり、クローズドホールドぎりぎりになる。

気持ち良い帆走が続いたがアマルゴス島の岬を越えるには登りきれないので機帆走にする。それでも登りきれずタックするが波が悪く艇が叩かれる。風は15ノット位になっている。暫くして岬をかわせるようになったのでタックをする。このスターボードタックは波が良く岬をかわしてからコースが南側に若干変針出来たので、エンジンを切り帆走する。

お昼は朝悦子が作ってくれたお握りをビールで頂く。この日悦子は艇内で休んでコックピットには出てこなかった。

島の中央に位置する Katapola の入り江に入り、船首からアンカーを打ってから船尾を港の岸壁に舳う。14:00の到着だった。意外と停泊しているヨットが少なく、係留場所も簡単に選べた。

艇でゆっくりしていると次々ヨットが来てすし詰めになってきた。昨年我々はフェリー乗り場の横につけてアンカーがフェリーの下に入り出られないことがあったが、見ていると1艇がフェリー到着の為移動させられていた。

水深が8m位だったのでアンカーを潜って見ようとしたが海の透明度が今一つで見る事は出来なかった。但し海底は固い砂地でアンカーの効きの良さそうな底質だったのとチェーンを45m伸ばしている所以心配は無い。4,5日はメルテメが吹く予報なので慎重には慎重を重ねてアンカーを打った。

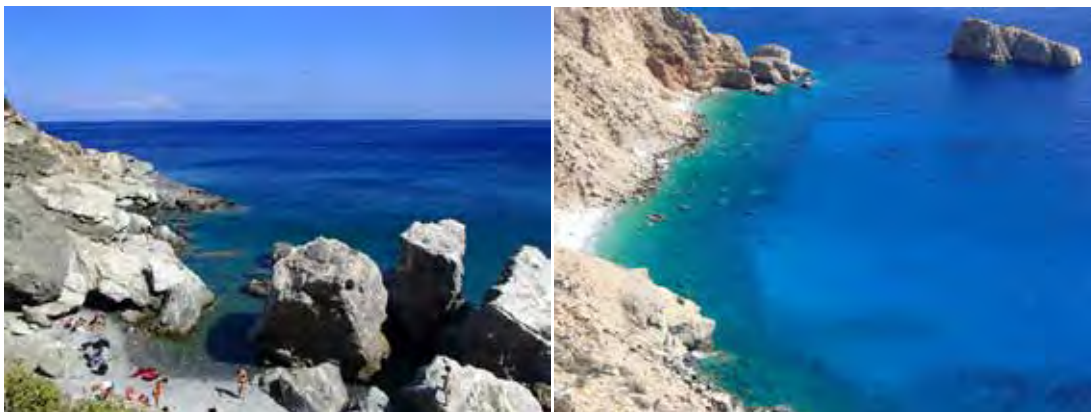
夕食は野菜サラダとタイカレーをこの島で購入したギリシャ産白ワインで頂く。

9月17日(水) Amorgos 晴れ メルテメ吹き始める

朝から風が吹いている。朝食は挨拶がてら CAVOK5の係留してある前のタベルナでコーヒーとブレッドで済ます。

今日はゆっくり艇で過ごすことにする。隣のチャーターグループの艇は強い風にも拘わらず出港していった。

バイクを借りて島の泊地とビーチを見に行く。ビーチを丘の上から見ると海の色が何とも言えなく美しく夢の世界のようだ。女性が海から突き出ている岩の上で全裸になって日光浴をしていたが芸術的で自然との調和が見事であった。流石映画グランブルーのロケ地になっただけある。



二つの泊地 Kalotiri と Ayios Annas も見て回る。Kalotiri は北側の島に囲まれた入り江で天然の良好な錨泊地で安全だ。4艇程錨泊していた。島の東側の Ayios Annas は小さな漁港でヨットは係留してなく漁船で占められていた。

アマルゴス島はキクラデス文明として古代イオニア人により紀元前 3200 年前から栄えたところでクレタ島ミノア文明より前からだそうだ。ミノア文明クレタの支配下に入ったそうだ。丘の上にはミノア文明の遺跡が残っている。



遺跡がある丘の上から展望する。海は白波がたっているが次ぎ次とヨットが出港していく。南に下る追い風ルートだったら良いが登りは厳しい。

そして午後になると今度は入港してきた。

バイクを返して一杯飲んで夕暮れをゆっくり味わった後、夕食を赤ワインで頂く。

トマトサラダ、胡瓜とオニオンのサラダ、ヒレスステーキ、ガーリック・パセリライスだった。ヒレは柔らかくニンニク味で美味しかった。

9月18日(木) Amorgos 晴れ 北北西 20 ノット

エーゲ海の夏の季節風メルテメが吹き始める。この風は6月下旬から9月までの季節風で特に7、8月が強くなる。時には風力7、8まで上がるので注意が必要だ。9月も中旬になり強さは弱まり、風力6止まりだが海面は一面白波が立っている。

我々はこの風の中出港する気にはならないが何艇か出入りしている。ここは槍着けするとき北西風は横風になるので皆さん着岸で苦労している。アンカーが隣の艇のチェーンと絡まったり、他艇のアンカーロープをプロペラからませたりしている。我々も着岸する艇を手助けしてあげる。皆さん協力的で明日は我が身と云う感じで手伝っている。艇がぶつかりそうになっても淡々とフェンダーを間に入れて衝突を未然に防いでいる。それぞれの立場で皆さん協力している。

レンタカーを借りて島内を観光する予定だったがこのような状況下艇を留守にしたくなかったので風が治まってからにすることにした。

私は午後バイクを借りて昨日行かなかった島の西側の泊地 Kalotaritissa を見に行く。沖合に白波が立っている中この入り江は静かであった。小舟が沢山係留してあったがヨットは1艇だけだった。ここも映画グランブルーのロケ地になった所だ。

夕暮れ久しぶりにブルを飲む。夕食はトルコ風オムレットと停泊している岸壁の前のタベルナで鶏と豚のスブラキ(串焼き)をテクアウエイして艇内で頂く。風が強くコックピットでは寒い。

今日も平和な一日が心地よく終わった。